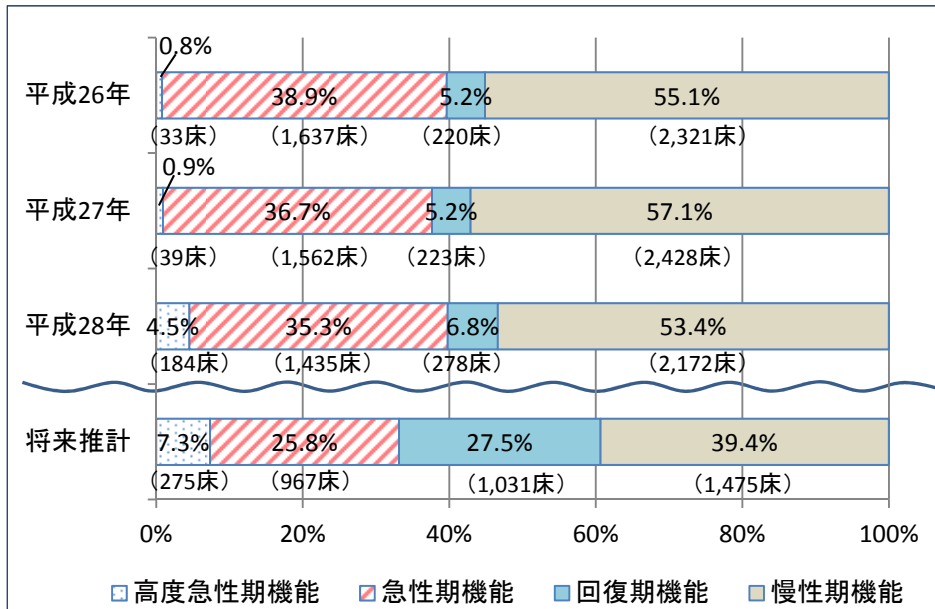
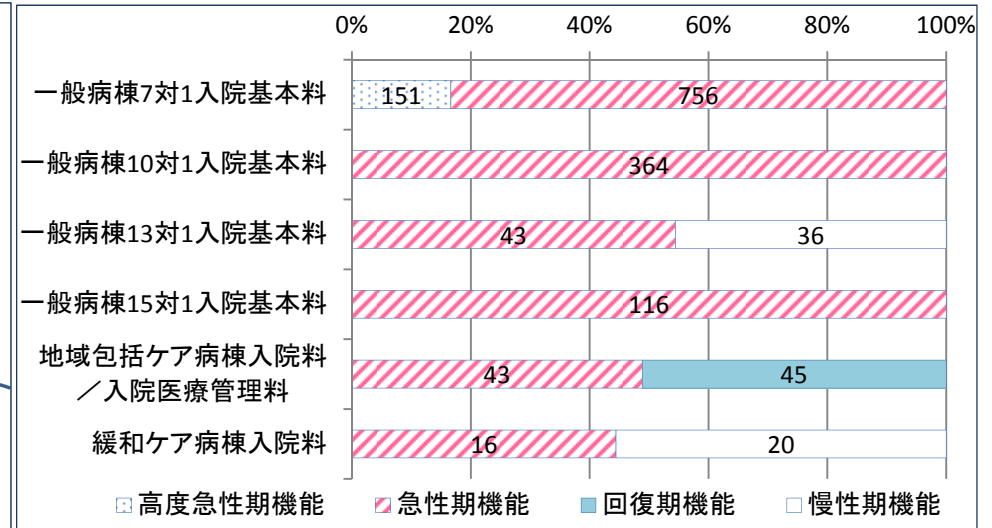


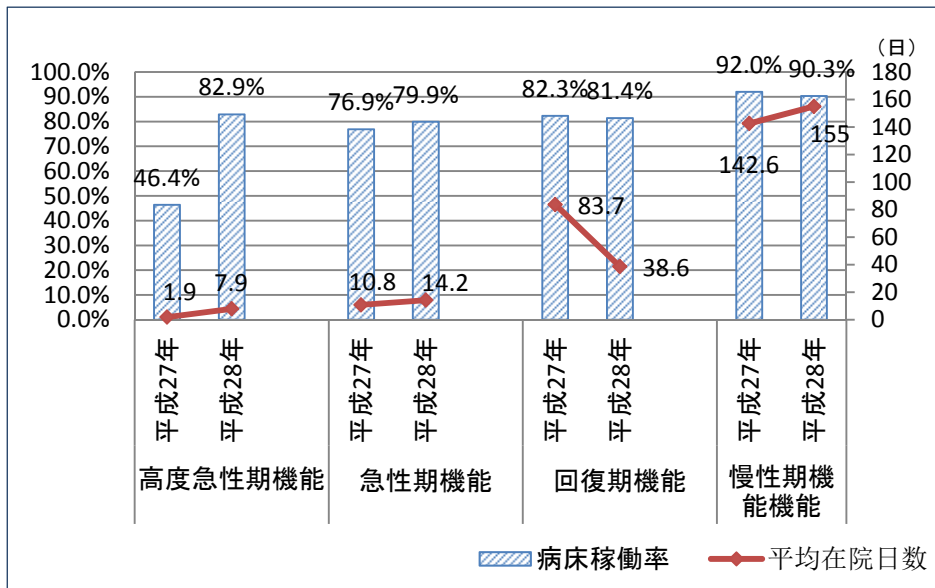
①4機能別病床数の推移(平成26年度～平成28年度)



③入院料×機能



②病床稼働率と平均在院日数の推移(平成27年度・平成28年度)



④退院後1ヶ月以内に在宅医療を必要とする患者の割合

	在宅医療を必要としない患者(死亡退院を含む)	自院が在宅医療を提供する予定の患者	他施設が在宅医療を提供する予定の患者	在宅医療の実施予定が不明の患者
高度急性期機能	264 86.8%	0 0.0%	2 0.7%	38 12.5%
急性期機能	1836 91.2%	8 0.4%	46 2.3%	124 6.2%
回復期機能	58 64.4%	4 4.4%	17 18.9%	11 12.2%
慢性期機能	161 57.7%	31 11.1%	28 10.0%	64 22.9%

⑤退院調整部門を置いている病院の割合 **42.9%**

- ①慢性期機能と報告された病床が半数を占めるという特徴
- ①H27からH28にかけて、回復期機能が増(地域包括ケア病床の増)
- ②急性期機能において、平均在院日数が長くなっている
- ③13:1病床において、慢性期機能と報告された病床が約半数を占める
- ③地域包括ケア病棟では、急性期機能と回復期機能の報告がほぼ均衡
- ④高度急性期・慢性期機能において、退院後の在宅医療実施予定が不明という割合が高い
- ⑤退院調整部門の設置割合が都平均に比べ低い